



新谷由里子 プロフィール

氏名: 新谷 由里子 (しんたに ゆりこ)

生年月日: 1968年2月22日 (満57歳)

現職: 白鷗大学 教育学部 心理学専攻 教授

経歴 国立社会保障・人口問題研究所 研究員等を経て現職

主な専門分野: 人口学、社会学、教育社会学、家族社会学

学歴 日本女子大学大学院 文学研究科教育学専攻 博士課程後期 満期退学

主な研究分野

- ・ 人口学: 少子化の要因と社会的背景
- ・ 人口経済学: 子どもへの教育期待と出生意欲の関連
- ・ 教育社会学: 高等教育の大衆化と教育費用負担
- ・ 家族社会学: 子どもの社会化、育児不安、親の意識変容

研究・社会活動

- ・ 厚生労働省・文部科学省の研究プロジェクトに多数参加
- ・ 国立社会保障・人口問題研究所において『出生動向基本調査』の研究分析を担当
- ・ 少子化政策や教育政策に関する研究を継続的に実施

主な著作・研究

- ・ 『人口減少と少子化対策』人口学ライブラリー16 (共著)
- ・ 『少子化と女性のライフコース』人口学ライブラリー19 (共著)
- ・ 『現代日本の結婚と出産ー第15回出生動向基本調査報告書』

その他外部委員

国立社会保障・人口問題研究所客員研究委員

小山市男女共同参画審議会委員長

小山市総合計画策定懇話会副委員長

野木町男女共同参画審議会委員

矢板市でで見つけよう！
喜びのある子育て
～超少子化時代の出産・子育てを考える～

少子化アドバイザー
新谷由里子（白鷗大学）

急速な社会変化のなかで「子育ての喜び、
幸せ、親と子時間」はどのようにつくれるか

子どもが少ない社会

子どもが少ない社会

●近代化の中で豊かになると子どもは減少する？

人口学、経済学、社会学の知見から、

「近代化により子ども数は減少する」 ということが

明らかになっています。先進国で合計特出生率（TFR）
が2.0以上の国はほとんどない（アメリカ、フランスは高い）

2024年（日本）

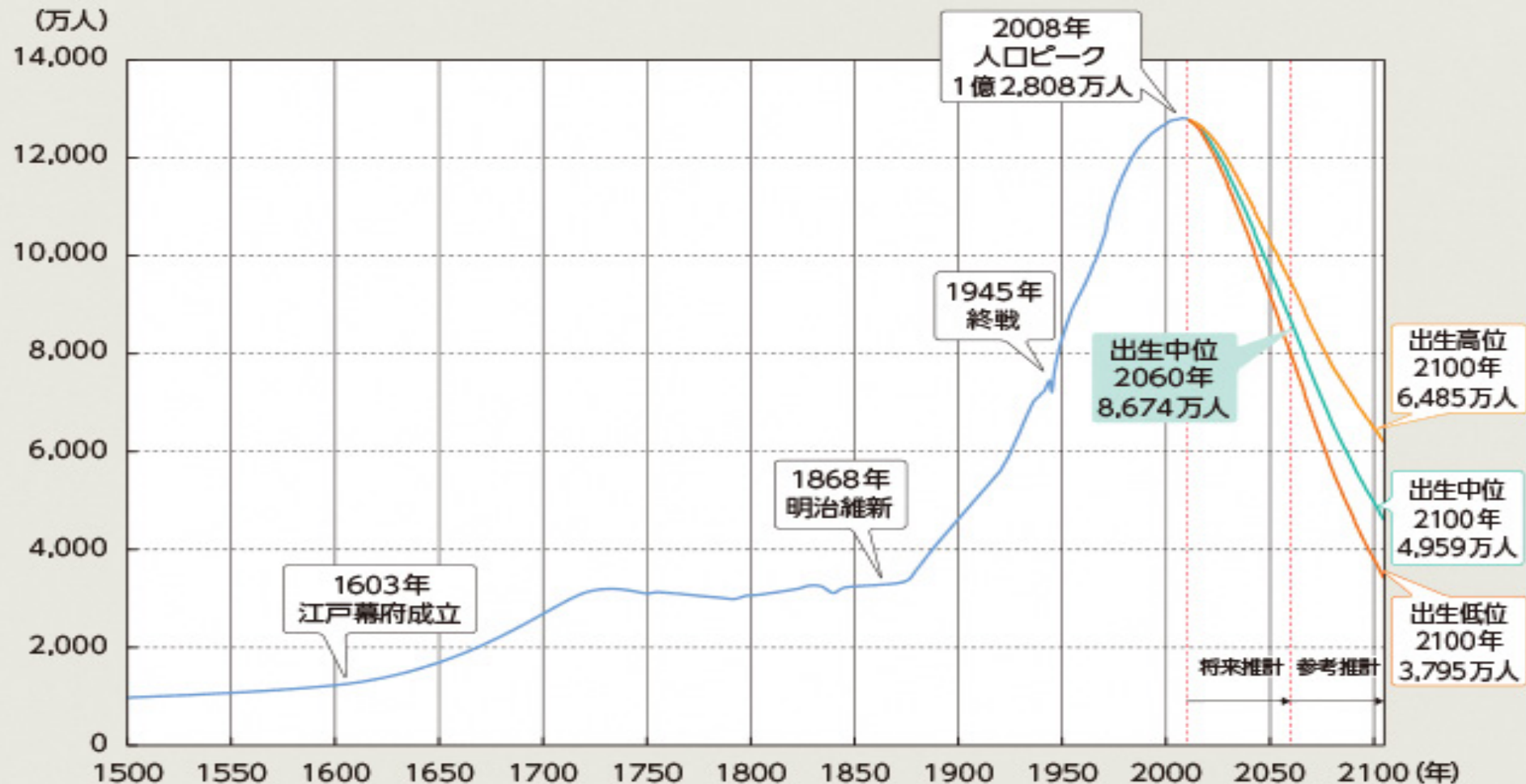
出生数 約 68万6千人（過去最低を更新）

合計特殊出生率 1.15（過去最低を更新）

* 人口を維持する水準⇒合計特殊出生率

2.07

我が国の長期的人口推移



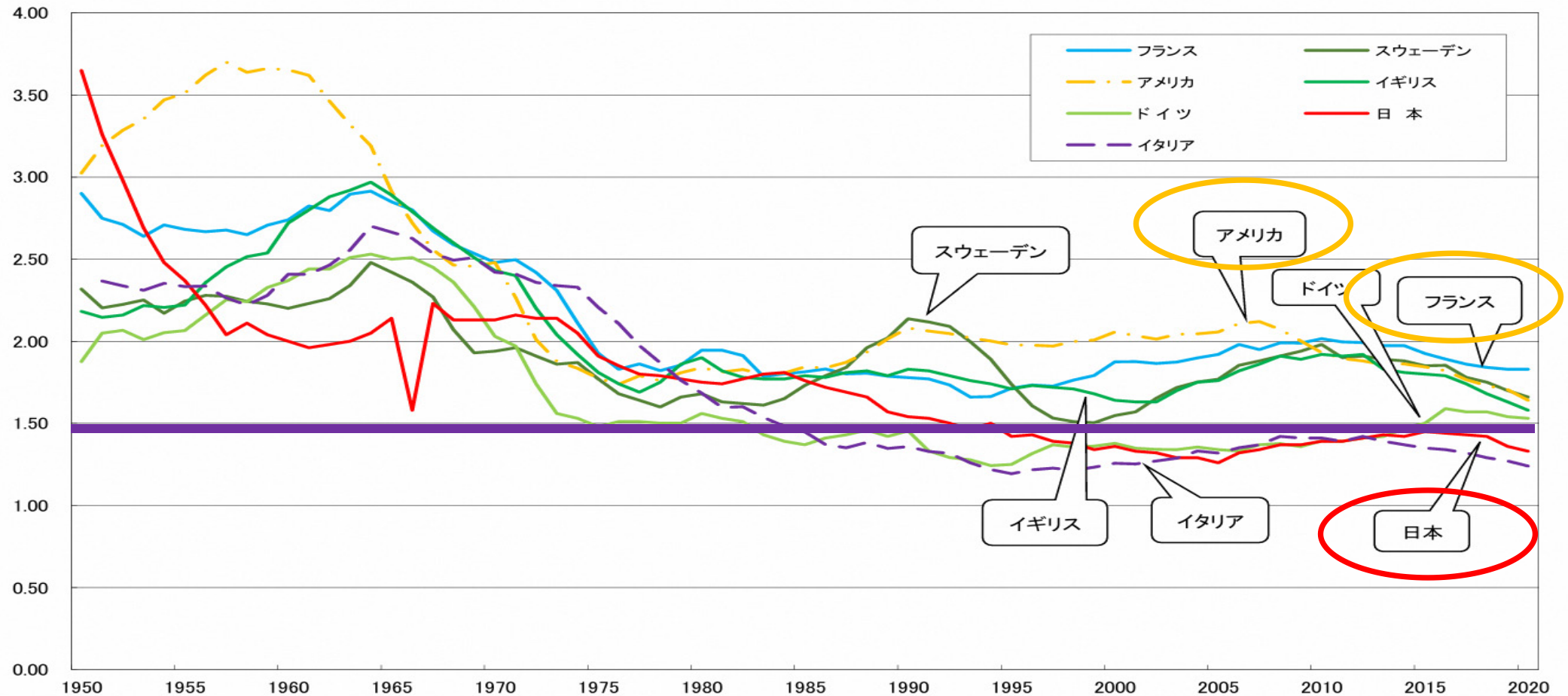
資料：1920年より前：鬼頭宏「人口から読む日本の歴史」

1920～2010年：総務省統計局「国勢調査」、「人口推計」

2011年以降：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」出生3仮定・死亡中位仮定

一定の地域を含まないことがある。

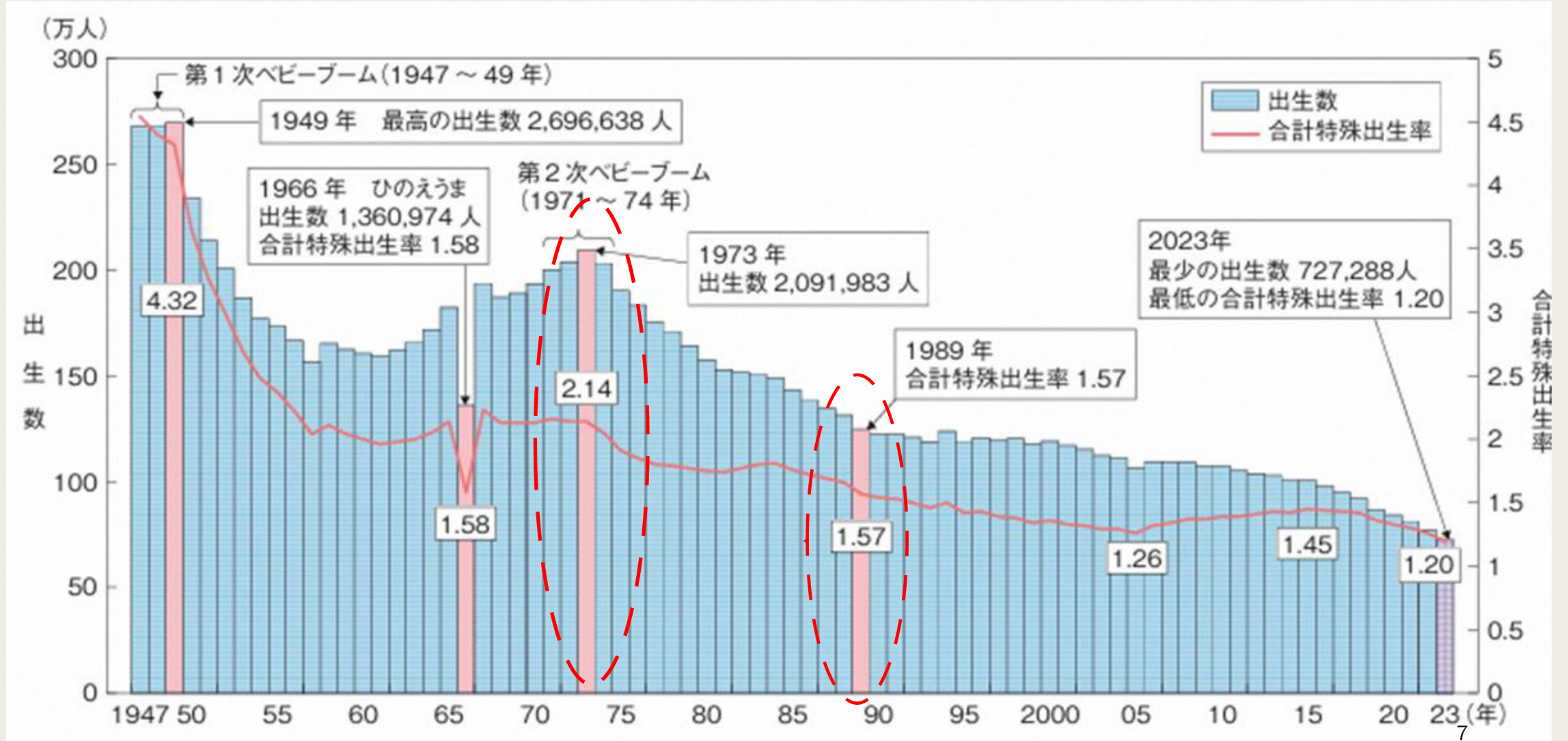
諸外国の合計特殊出生率の動き



資料：諸外国の数値は1959年までUnited Nations “Demographic Yearbook” 等、1960～2018年はOECD Family Database、2019年は各国統計、日本の数値は厚生労働省「人口動態統計」を基に作成。
注：2021年は、日本1.3、アメリカ1.66(暫定値)、フランス1.83(暫定値)、スウェーデン1.67、イギリス1.61となっている。

少子化社会の進行

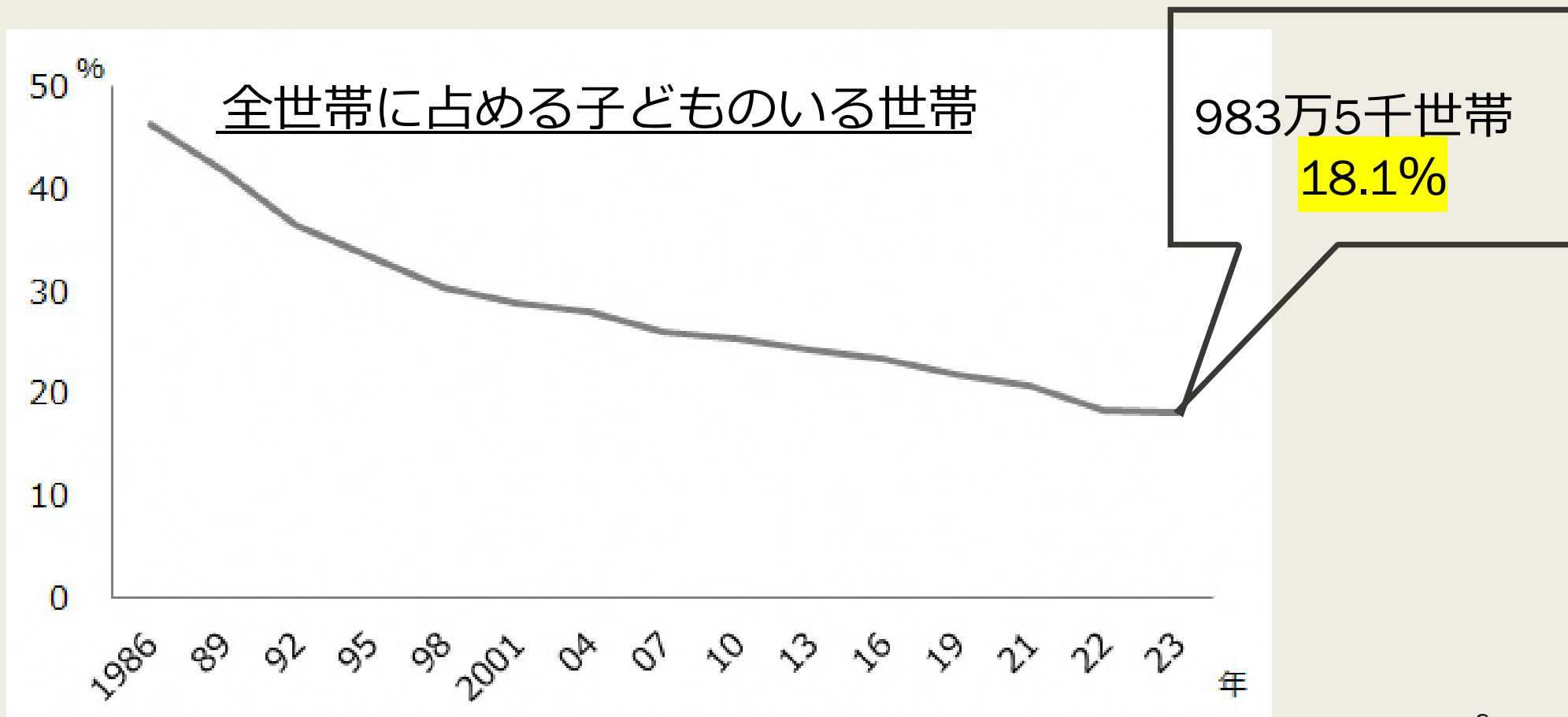
【出生数と合計特殊出生率の推移：1947~2023年】



子どものいる家族は少数派？

- 全世帯の中で子どものいる家族は 18 パーセン

ト



少子化はなぜ起きたのか

少子化の背景・要因

- 出生力の低下の要因は、①「夫婦内出生力の変化」
②「結婚の変化」 の2つに分けられる

- 1974～90年：「**晩婚化・未婚化**」

- 1990年～現在：

「晩婚化・未婚化・非婚化」

+ 「夫婦内出生力も低下」

夫婦の子ども数が減っているのはなぜ？

① 経済的理由 → 子育てや教育にお金がかかる
(多子 減少、特に3人目を持ってな → 8割)

い

② 出産・育児の心理的・体力的負担感の高まり
(高齢出産、核家族化し母親一人で子育て)

③ 女性の就業継続と出産・子育ての両立が困難である

若い世代の結婚が減っているのはなぜ？

- ① 適当な相手と出会えない（お見合い→恋愛結婚）
- ② 男性の所得・賃金の伸び悩み（非正規労働の増加）
- ③ 女性の高学歴化とキャリア志（経済的自立可）
向

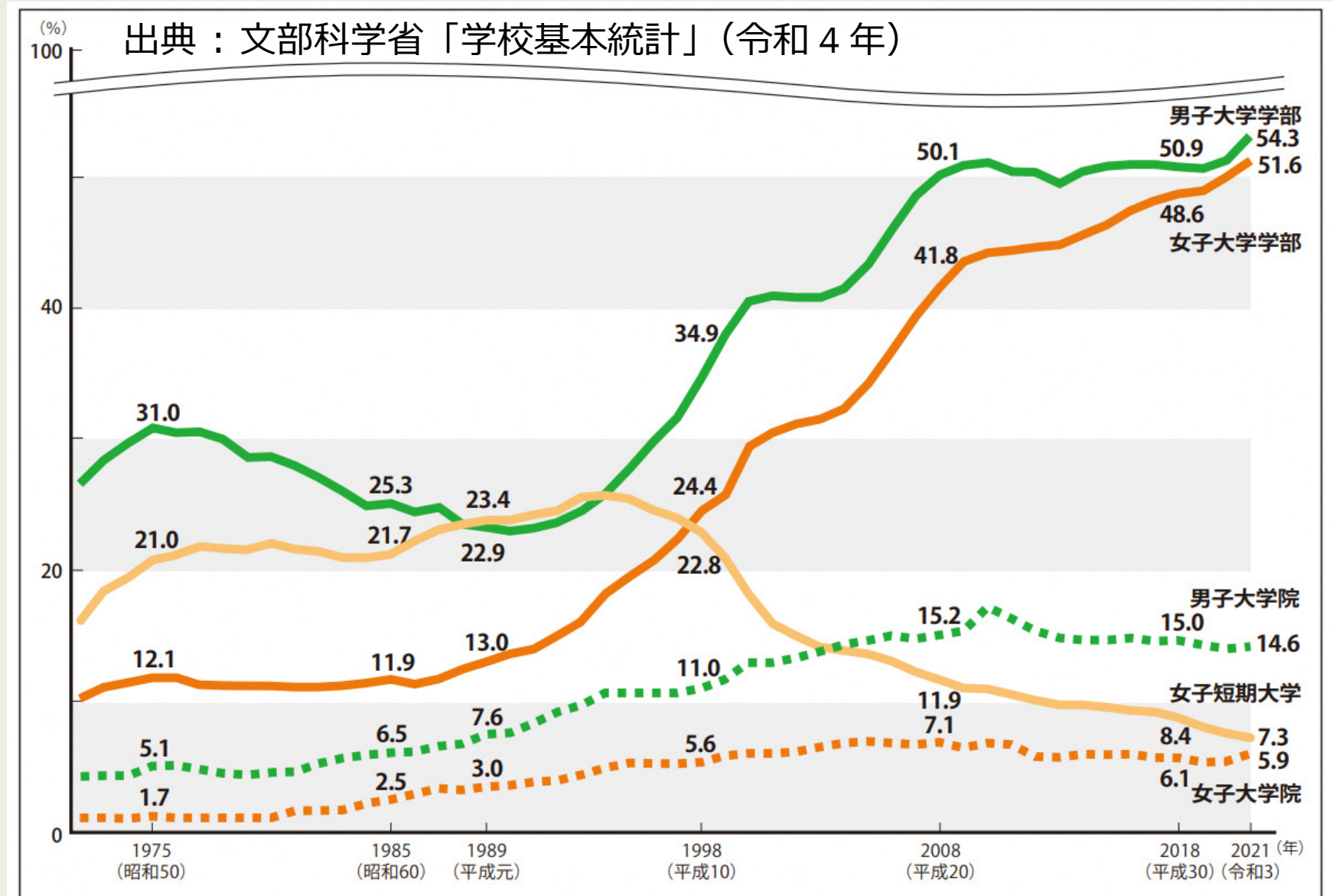
④ 価値観の変化・多様化（個人化、自己実現を重視）



結婚や子どもを持つことは、数多くあるライフスタイルの一つになっている

若い世代のライフコース（仕事・ 出産・子育て）観の変化

女性の高学歴化：大学進学率は男子と同レベルまで (1990年代～) 上昇





国立社会保障・人口問題研究所

2021 年社会保障・人口問題基本調査 <結婚と出産に関する全国調査>

第 16 回出生動向基本調査

結果の概要

電話：(03)3595-2984 担当・内線：人口動向研究部(4474・4472)

本調査の結果と各グラフの数値データ（CSV 形式のファイル）は、国立社会保障・人口問題研究所のウェブサイト内にある出生動向基本調査のページに掲載されています。

（第 16 回調査結果ページ URL）

https://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou16/doukou16_gaiyo.asp



仕事・出産・子育てをめぐるライフコースの定義

(出典)「第16回出生動向基本調査」国立社会保障・人口問題研究所

専業主婦コース：結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない

再就職コース：結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事をする

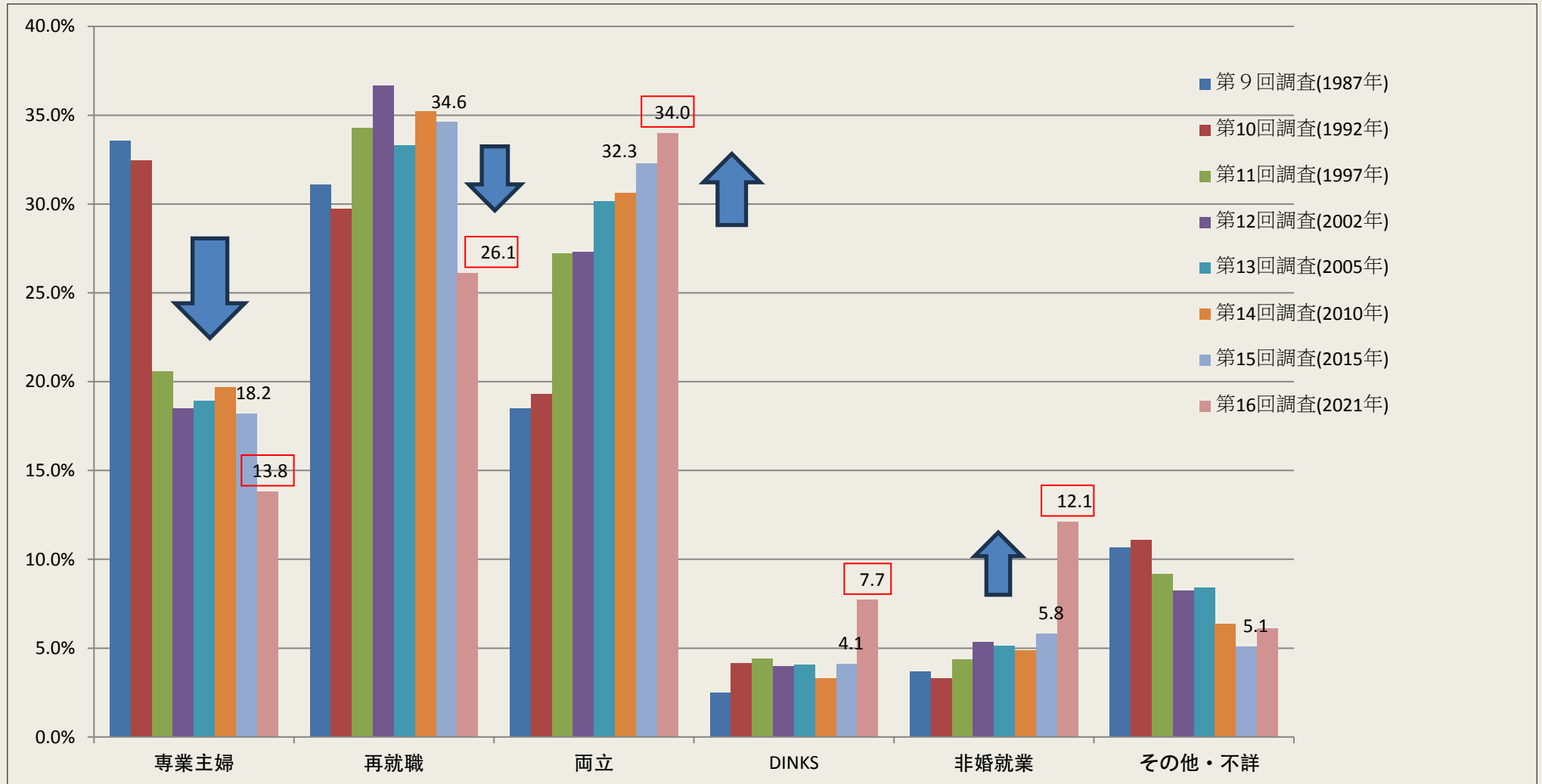
両立コース：結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける

DINKS コース：結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける

非婚就業コース：結婚せず、仕事を続ける

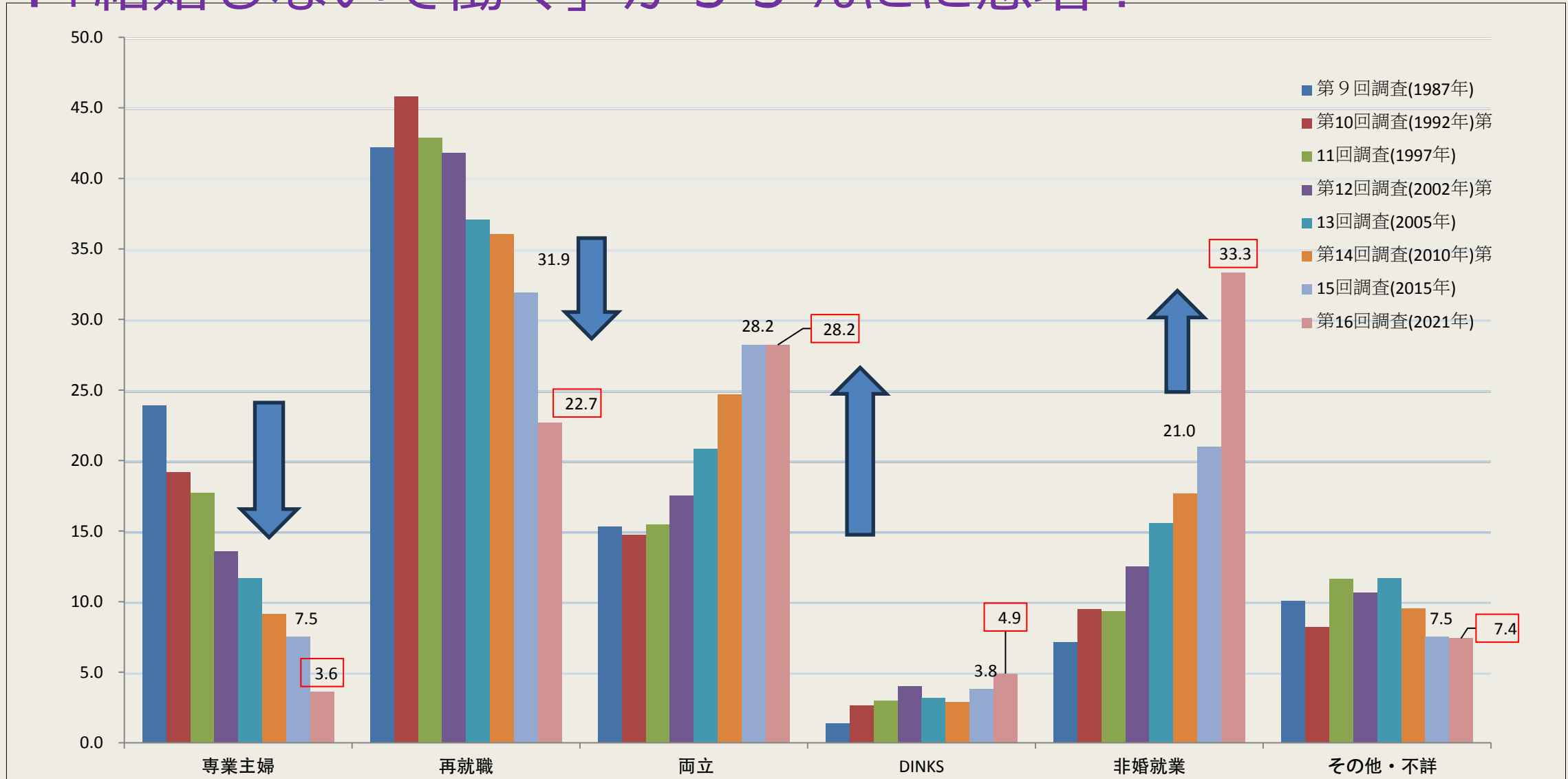
DINKS : Double Income (共働き) No Kids (子どもを持たない) の略

理想のライフコース（女子）：初めて「両立」が「再就職」を上回る



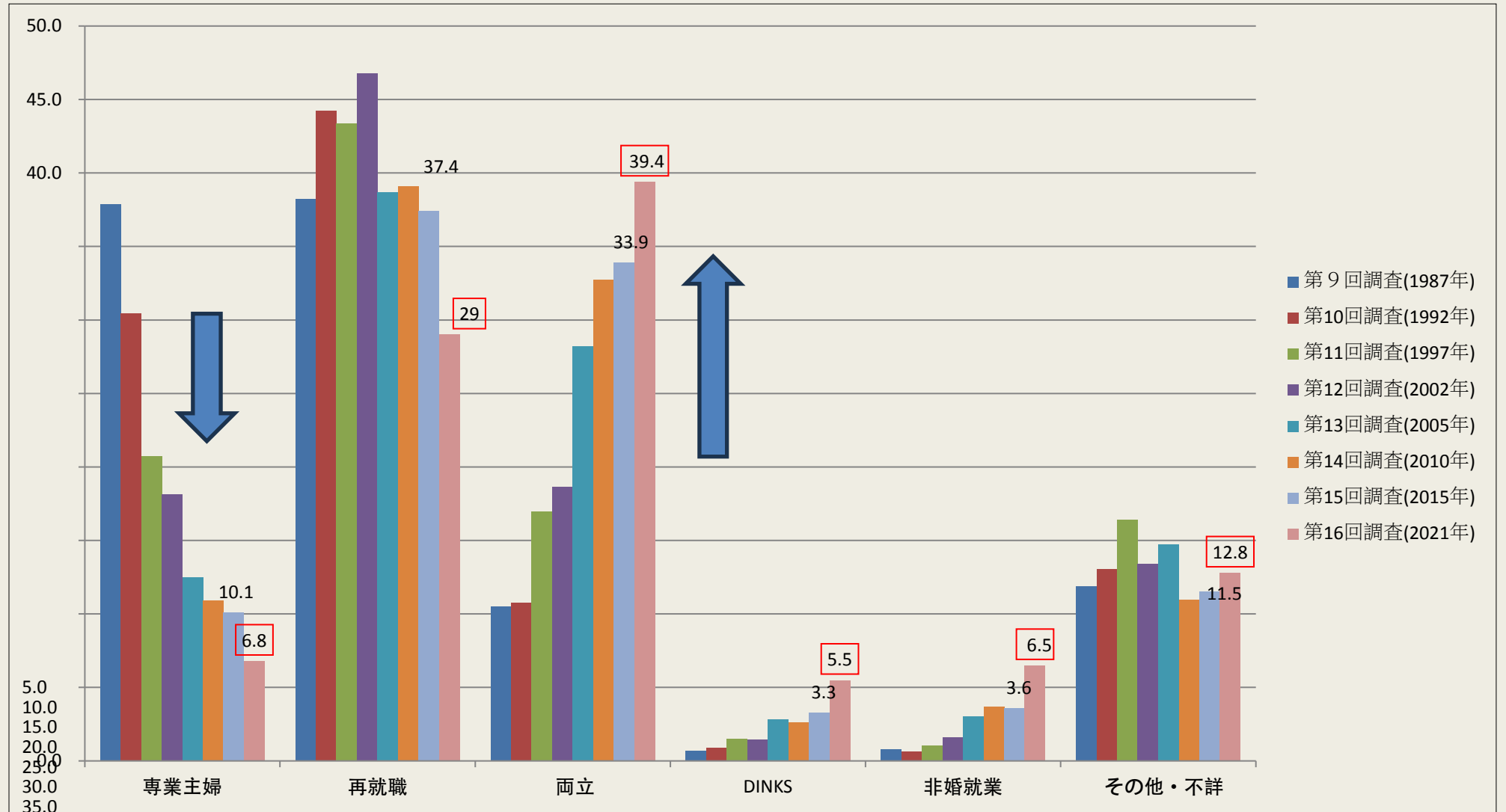
予定のライフコース

：「結婚しないで働く」が33%に急増！



男性が妻に望むライフコース

: 妻に「両立」を望む男性は4割！



未婚女性（18－34歳）の理想・予定のライフコース：まとめ

●理想のライフコース（女子）は、「両立コース」が、34%、一方「専業主婦」と「再就職」を合計すると、出産を機に仕事を辞めることを希望する女性も4割。

- 予定のライフコース（女子）は、最も増加し最多の「非婚就業コース」は、3人に1人。「両立コース」が、3割弱まで増加
- 期待のライフコース（男子）は、最も増加し、最多は「両立コース」の39.4%若い男性が、配偶者（妻）には、「仕事」と「家庭」の両立を期待

子どもを持つ理由と子育ての負担感

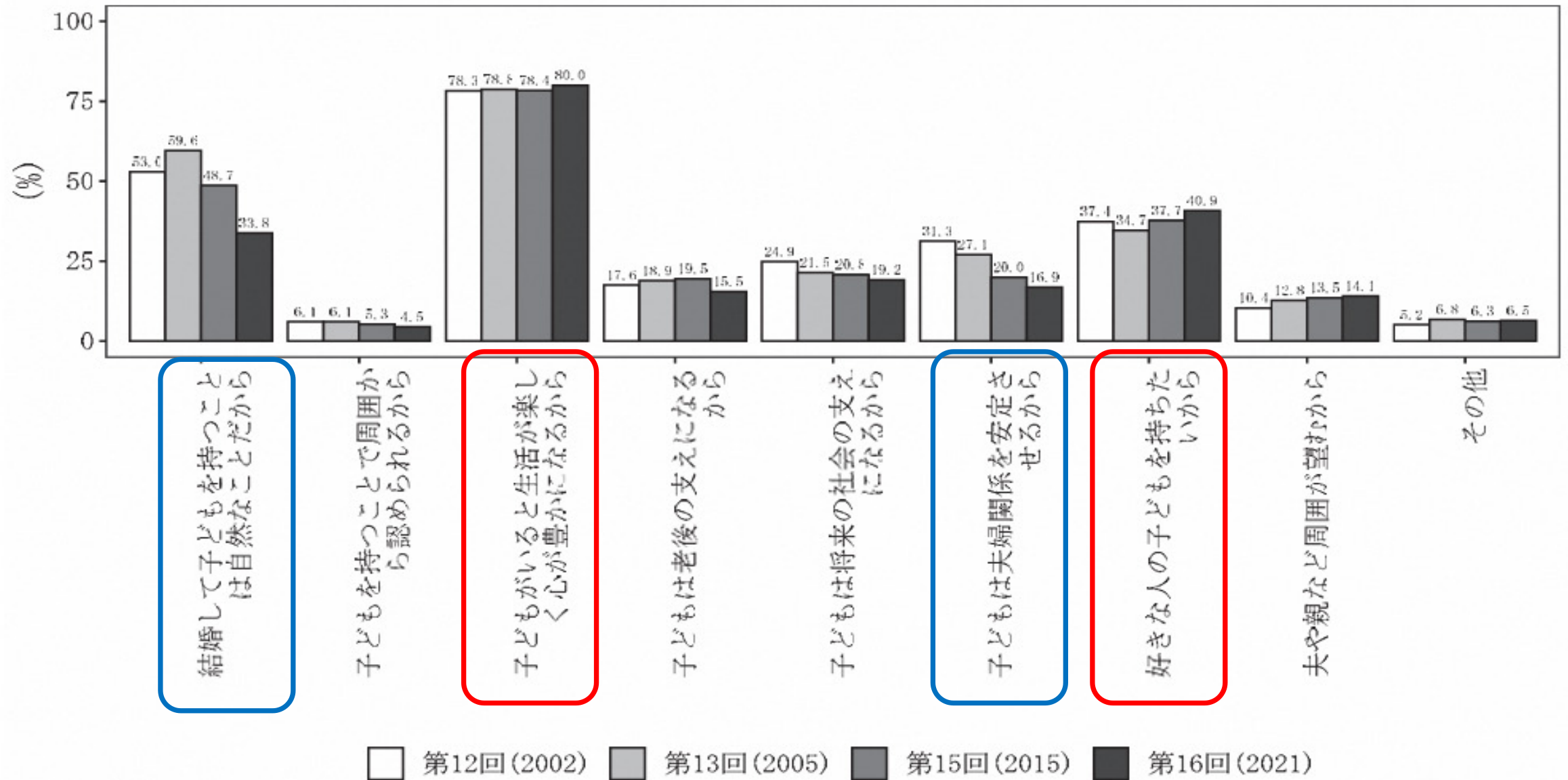
夫婦が子どもを持つ理由

(第 16 回出生動向基本調査結果 2021)

- 子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから (80%)
- 好きな人との子どもを持ちたいから (40.9%)
- 結婚して子どもを持つことは自然なことだか (33.8%)
- 子どもは夫婦関係を安定させる (16.9%)

「第 16 回出生動向基本調査」 国立社会保障・人口問題研究所

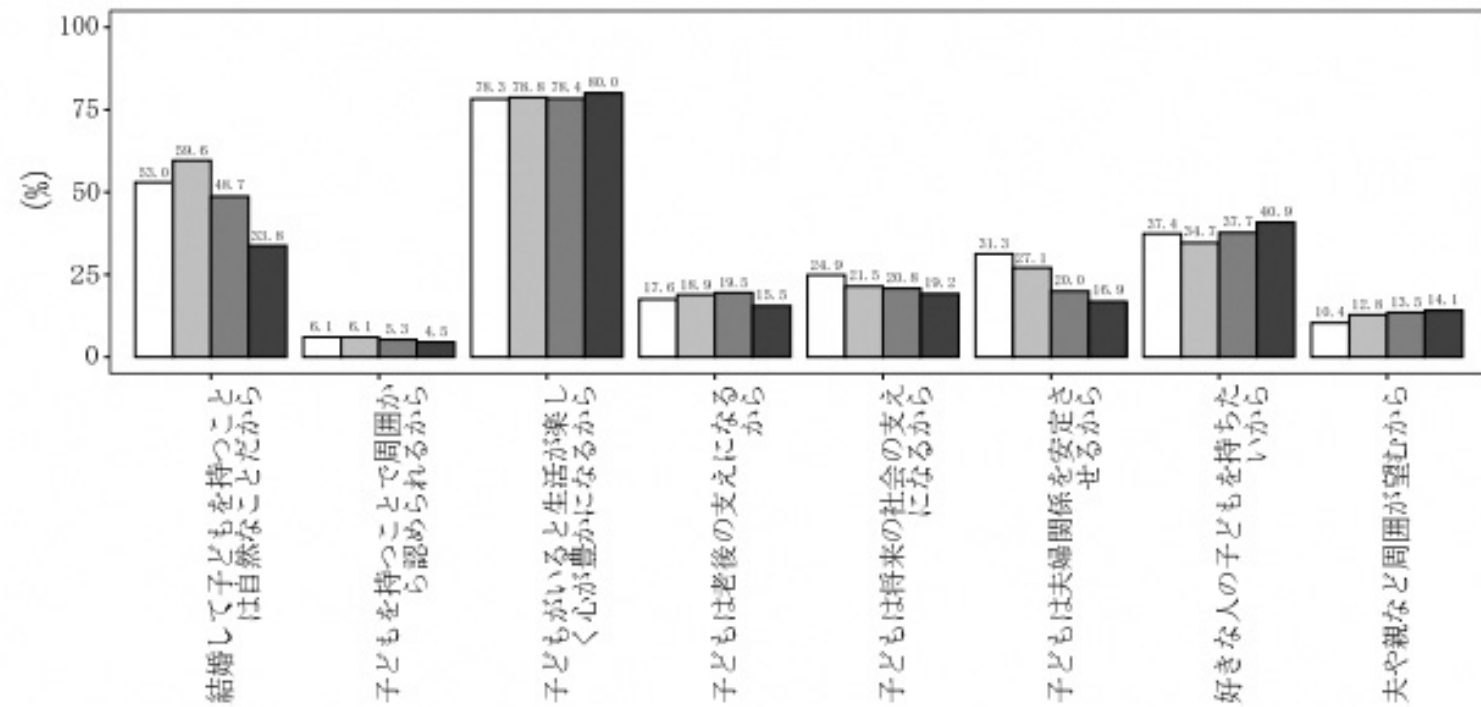
調査別、夫婦が子どもを持つ理由



子どもを持つ理由

子どもを持つ理由の最多は「子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから」、一方、「子どもを持つことは自然」「子どもは夫婦関係を安定させる」は減少

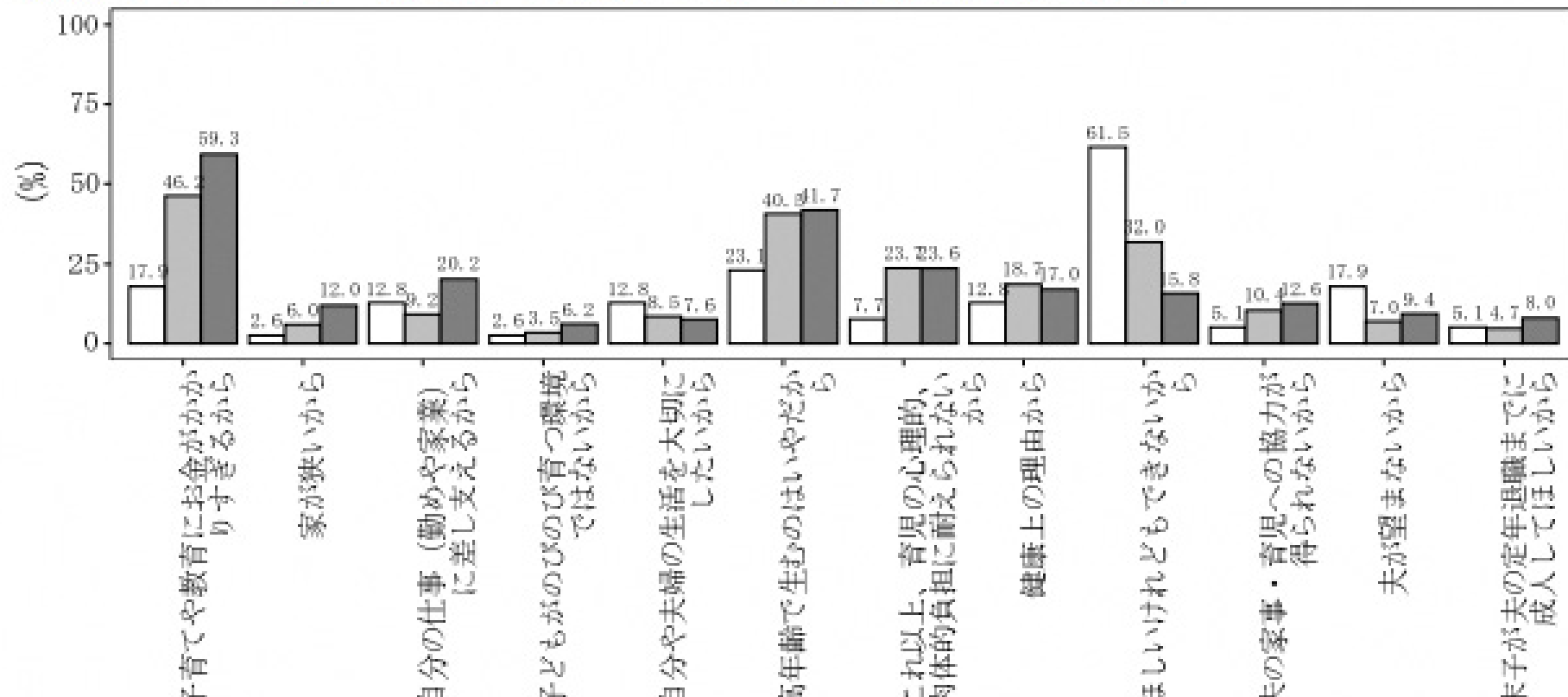
図表 7-4 調査別にみた、夫婦の子どもを持つ理由



夫婦が理想の数の子どもを持たない理由

<理想の数の子ども数を持たないのは「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」、妻 35 歳未満の夫婦での選択率は高いまま、妻 35 歳以上では選択率低下

図表 7 理想・予定子ども数の組合せ別にみた、理想の子ども数を持たない理由：第 16 回調査（2021 年）（予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦）



少子化の要因：子育て費用の負担大

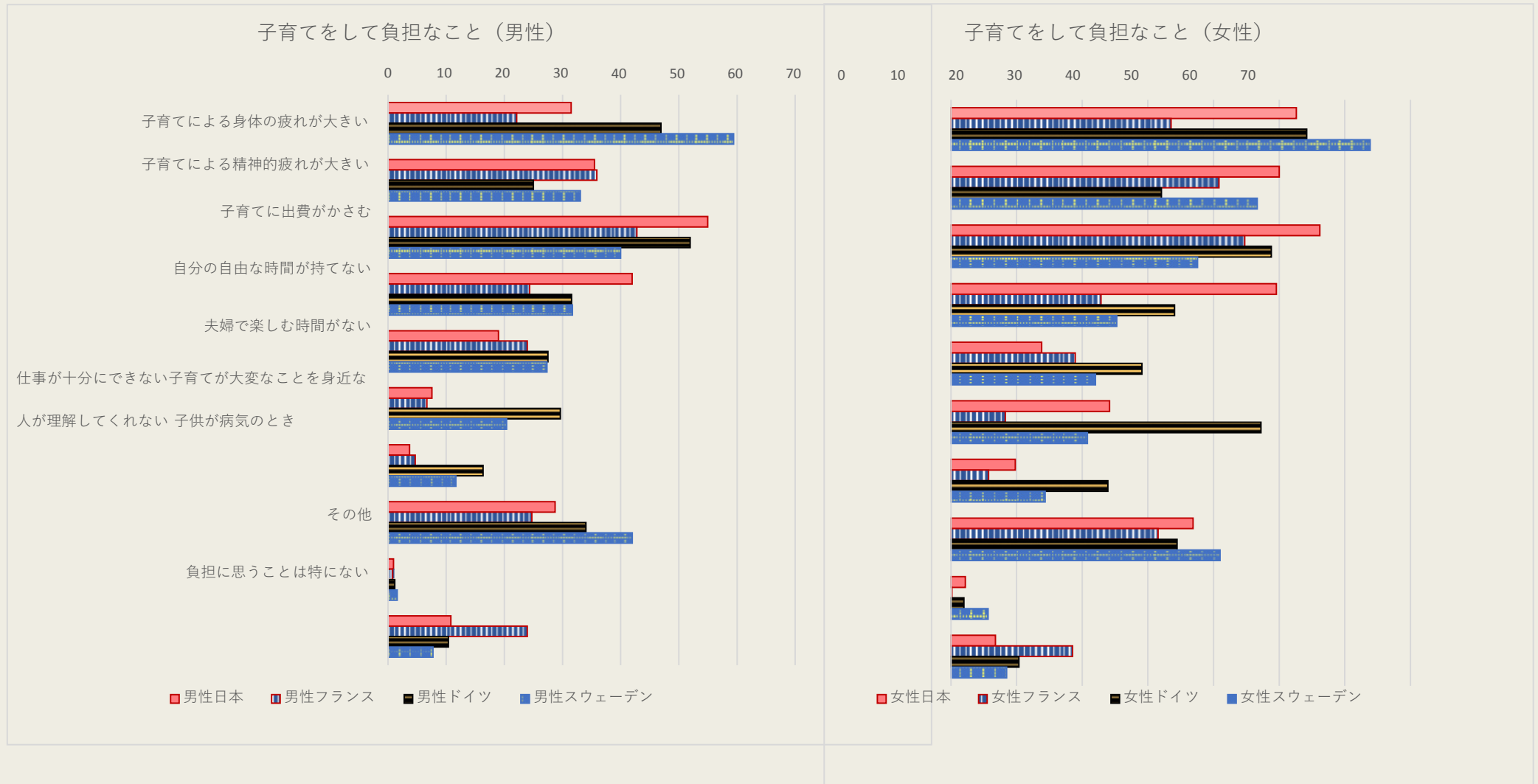
図表Ⅲ-1-13 妻の年齢別にみた、理想の子ども数を持たない理由：
第15回調査（2015年）（予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦）

（複数回答）

妻の年齢 (客体数)	理想の子ども数を持たない理由											
	経済的理由			年齢・身体的理由			育児負担	夫に関する理由			その他	
	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから	家が狭いから	高齢で生むのはいやだから	欲しいけれどもできないから	健康上の理由から	肉体的負担に耐えられない、これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられない	夫の家事・育児への協力が得られないから	一番末の子が夫の定年退職まで成人してほしいから	夫が望まないから	子どもがのびのび育つ環境ではないから	自分や夫婦の生活を大切にしたいから
30歳未満 (51)	76.5%	17.6	17.6	5.9	5.9	5.9	15.7	11.8	2.0	7.8	3.9	9.8
30～34歳 (132)	81.1	24.2	18.2	18.2	10.6	15.2	22.7	12.1	7.6	9.1	9.1	12.1
35～39歳 (282)	64.9	20.2	15.2	35.5	19.1	16.0	24.5	8.5	6.0	9.9	7.4	8.9
40～49歳 (788)	47.7	11.8	8.2	47.2	28.4	17.5	14.3	10.0	8.0	7.4	5.1	3.6
総数 (1,253)	56.3	15.2	11.3	39.8	23.5	16.4	17.6	10.0	7.3	8.1	6.0	5.9
第14回(総数) (1,835)	60.4%	16.8	13.2	35.1	19.3	18.6	17.4	10.9	8.3	7.4	7.2	5.6
第13回(総数) (1,825)	65.9%	17.5	15.0	38.0	16.3	16.9	21.6	13.8	8.5	8.3	13.6	8.1

注：対象は予定子ども数が理想子ども数を下回る初婚どうしの夫婦。理想・予定子ども数の差の理由不詳を含まない選択率。複数回答のため合計値は100%を超える。予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦の割合は、それらの不詳を除く30.3%である。

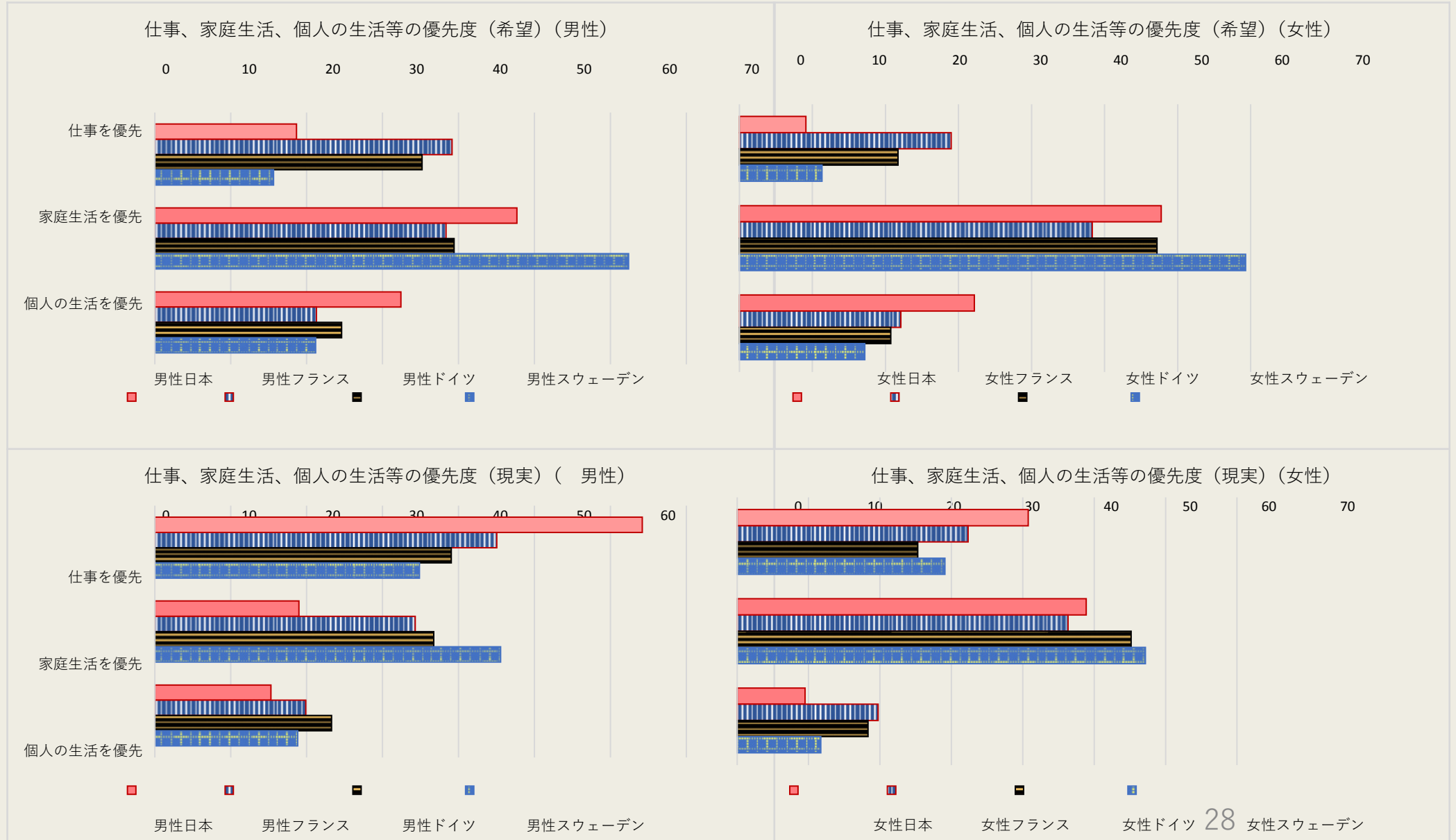
子育て負担感(国際比較) : 日本は「出費」と「自由時間」のなさ



「少子化社会に関する国際意識調査」(閣府子ども・子育て本部, 2021)

ワークライフバランス（国際比較）

希望は「家庭・個人生活を優先」 現実には「仕事を優先」



親子で一緒に過ごす時間は、平日 2 時間 19 分 (▲41 分)、休日 4 時間 19 分 (▲70 分) と減少傾向

Q1. ご家族と一緒に過ごす時間は1日平均どのくらいですか。平日と休日について、それぞれお答えください。

	平日 (平均時間)			休日 (平均時間)		
	2012 年	2025 年	増減	2012 年	2025 年	増減
全体 (n=400)	3 時間 00 分	2 時間 19 分	▲41 分	5 時間 29 分	4 時間 19 分	▲70 分
低学年 (n=200)	3 時間 05 分	2 時間 27 分	▲38 分	5 時間 32 分	4 時間 34 分	▲58 分
高学年 (n=200)	2 時間 56 分	2 時間 12 分	▲44 分	5 時間 26 分	4 時間 05 分	▲81 分

※平均値：「6 時間以上」は 6 時間で算出

価値観が多様化する中で子育て世代の「子どもを持つ喜び、幸せ」を伝えられているか？

若い世代の結婚・子ども観

では最近の若い世代はどのように結婚・子ども観を持っているのか？

- 結婚について
- 子どもを育てることについて

未婚者の結婚意思： 男女ともに意欲低下

「いずれ結婚する
つもり」は減少
(1992年→2021年)

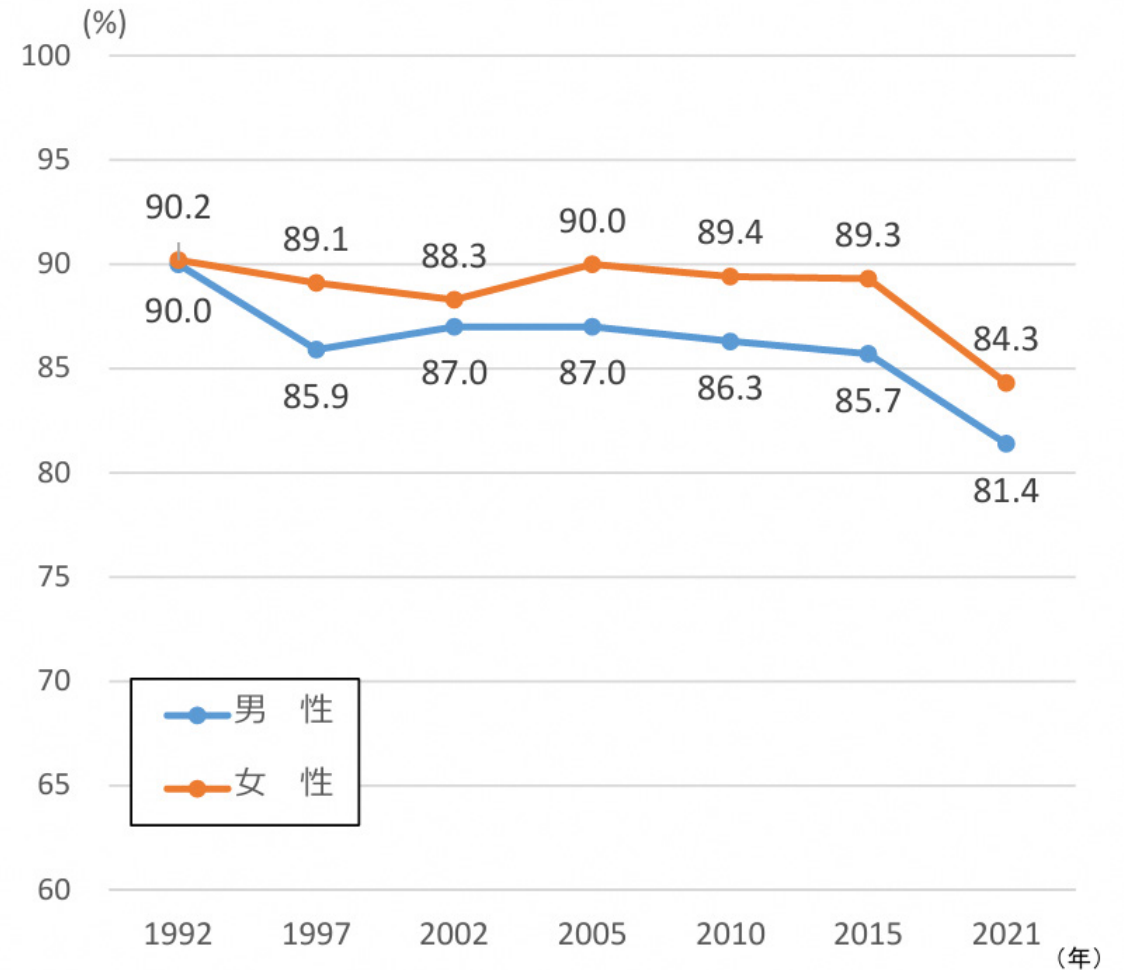
男性

95.9%→81.4%

女性

94.2%→84.3%

未婚者のうち「いずれ結婚するつもり」と答えた者の割合



資料：国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」より作成。

※18歳～34歳対象、設問「自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか」（1. いずれ結婚するつもり、2. 一生結婚するつもりはない）について、1を回答した割合。

賛成の割合

既婚者：70.3%

未婚者：57.8

%

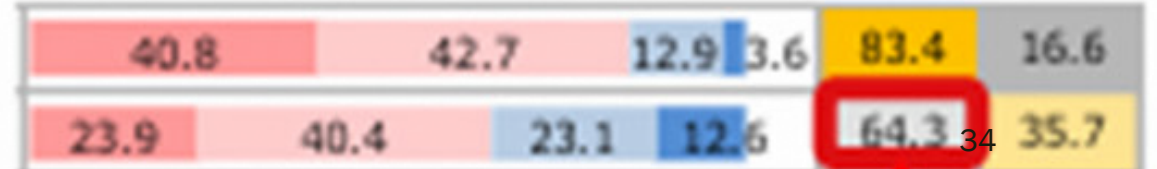
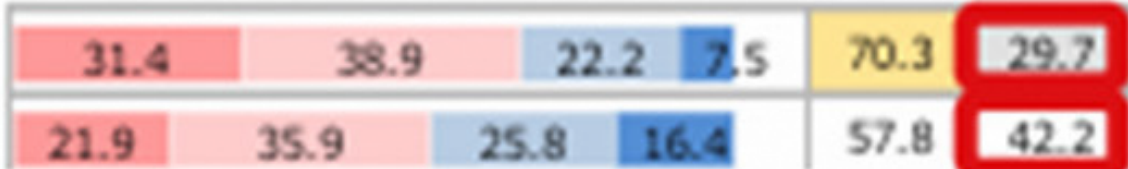
賛成の割合

既婚者：83.4%

未婚者：64.3

子どもを育てることは重要である

結婚して配偶者がいたら
生活が楽しく豊かになる



価値観の多様化の中で「子どもを持つ喜び、幸せ、充実感」をどのように伝えていくか

次世代への少子化対策 ①

ライフデザイン教育の充実

●分にとって何が幸せで、どのように生きていきたいかを具体的に考える

●仕事（キャリア）・結婚・家族についての知識や情報の提供

●命を大切にす、子育ての喜びや親子の関係を考える

ライフデザイン教育により結婚意識は高まる

「学んだことがある」未婚者の75%が「結婚したい」と回答

n≥30の場合（未婚者計より）

▼差分
+10ポイント
+5ポイント
-5ポイント
-10ポイント

■結婚はしたい
■結婚はできるならしたい
■結婚はできればしたくない
■結婚はしたくない
■法律婚ではなく、事実婚などを考えてみたい
■わからない

		n=	TOP2						TOP2	TOP2	
			結婚はしたい		結婚はできるならしたい		結婚はできればしたくない		結婚はしたくない		差分 (学んだ計-学んでいない)
未婚者計		(18,000)	32.4	31.4	5.6	14.4	2.6	13.7	65.8		
性年代 (未婚)	15~24歳男性(未婚) 学んだ計	(911)	41.5	34.8	4.8	7.8	1.8	9.3	76.3	+9.6	
	15~24歳男性(未婚) 学んでいない	(1,525)	33.5	33.3	5.6	12.1	0.9	14.6	66.8		
× ライフ デザイン 学習 経験 別	25~34歳男性(未婚) 学んだ計	(844)	36.2	33.2	5.7	13.5	1.5	9.9	69.4	+14.1	
	25~34歳男性(未婚) 学んでいない	(3,235)	24.5	30.7	5.5	19.6	2.2	17.5	55.2		
	35~39歳男性(未婚) 学んだ計	(449)	29.1	28.3	7.4	19.4	2.2	13.5	57.5	+10.0	
	35~39歳男性(未婚) 学んでいない	(2,175)	17.5	29.9	5.8	25.2	3.3	18.2	47.5		
	15~24歳女性(未婚) 学んだ計	(1,785)	43.2	31.2	6.0	8.0	2.2	9.4	74.4	+13.5	
	15~24歳女性(未婚) 学んでいない	(2,549)	38.9	32.0	5.9	9.3	1.8	12.1	70.9		
	25~34歳女性(未婚) 学んだ計	(692)	35.3	30.9	6.1	10.8	4.6	12.3	66.3	+5.5	
	25~34歳女性(未婚) 学んでいない	(2,708)	30.9	29.9	5.5	16.2	4.2	13.4	60.8		
	35~39歳女性(未婚) 学んだ計	(130)	28.0	28.7	6.6	14.0	9.0	13.7	56.7	+10.1	
	35~39歳女性(未婚) 学んでいない	(997)	19.6	27.0	4.4	24.0	5.6	19.4	46.5		

未婚男性（15-24歳）

学んだことがある 37.3%
学んでない 62.6%

未婚女性（15-24歳）

学んだことがある 41.1%
学んでない 58.8%

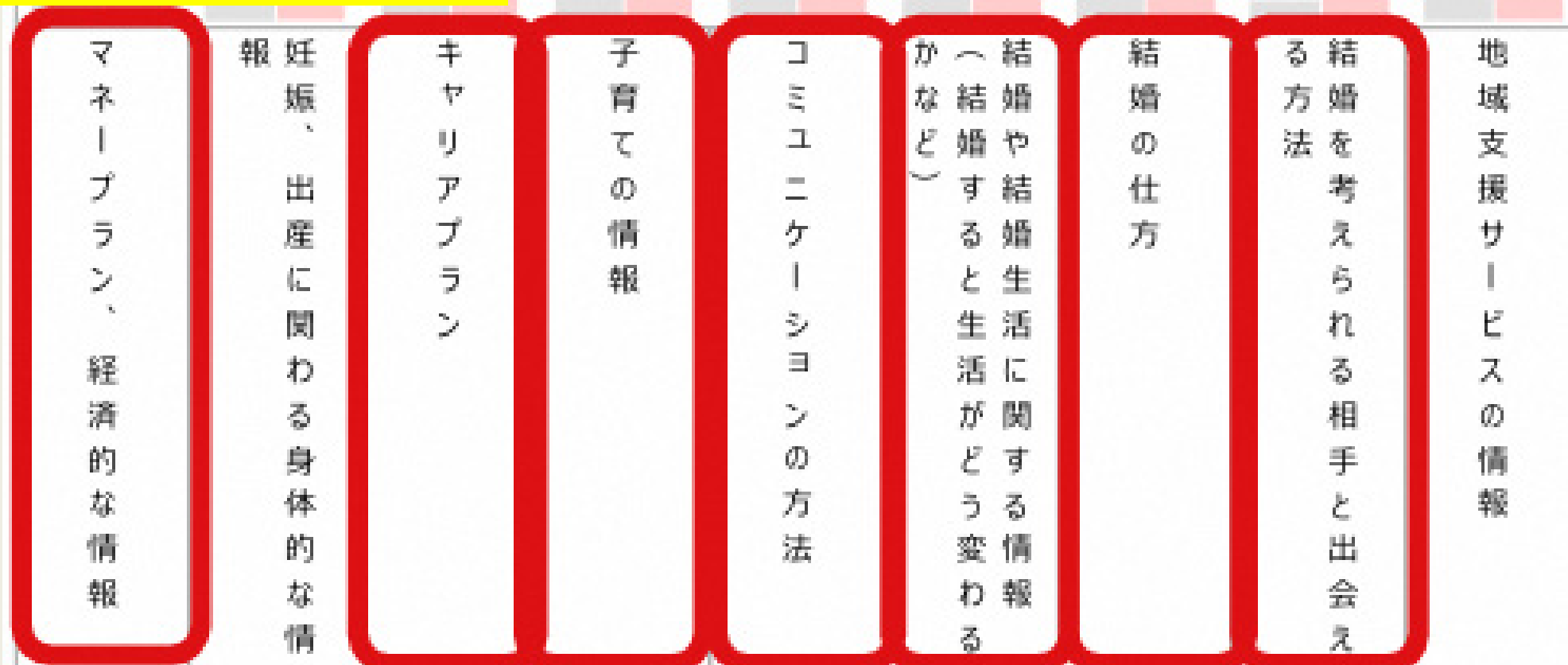
ライフデザイン教育により 結婚意識は高まる

未婚の男女（15～24歳）において、ライフデザインを「学んだことのある」人の方がいない人と比較し、

- 「今後結婚したいと思う」割合が高くなる。
- 理想の結婚年齢を「25歳から29歳」と回答する割合も高くなる傾向にある。

要望の高いライフデザイン教育

未婚者の方が既婚者よりも高かった要望は、「キャリアプラン(23.1%)」、「コミュニケーションの方法(22.0%)」、「結婚や結婚生活に関する情報(19.6%)」、「結婚の仕方(16.1%)」、「結婚を考えられる相手と出会える方法(15.7%)」



次世代への少子化対策 ① ふるさとの未来を若い世代と一緒に考える

「ふるさと」の良さや特色を考えるとともに、「若者・こども」が主体となり地域をつないでいくには何が必要か？を上の世代と一緒に考えていくことが重要

- 地域や命をつなぐ大切さを伝える

- 栃木県での子育ての良さ伝える→親子で過ごす時間の幸せを共有する

栃木で見つけよう！喜びのある子育て

県内自治体の取り組み事例①

: 鹿沼市赤ちゃんふれあい体験交流事業

赤ちゃん親子を募集しています

赤ちゃん交流体験事業は次世代を担う小中学生が、赤ちゃんと一緒に遊び、触れ合い命の尊さや心身の発達を学ぶ機会です。将来の子育てに対する期待や意欲を育むことを目的に実施しています



助産師による講話
赤ちゃんとの交流の前に
”いのちのはじまり”
について事前学習します
(希望校のみ)



赤ちゃん親子はどんなことするの？

子育て、妊娠、出産時の様子やお子様の普段の様子をお話したり、お子様とのふれあい方を伝えてください。



成長の様子や
毎日の過ごし方などを
写真や記録をみながら

ミルクをあげたり
離乳食を食べさせたり



子育ての楽しさや
大変さ。。。
子育ての今を
お伝えします



妊婦さん
募集中



実際に参加した親子の声

- ★「可愛い可愛い」とたくさん言ってもらえて嬉しかった。大事に育てていきたいと思いました。
- ★授業に協力できてとても良かったです。生徒さん達もとても意欲的だったので嬉しかったです。
- ★なかなか接する機会がない学生と交流が持てて良かった。我が子の成長が楽しみになりました。

スタッフ
募集中

スタッフはどんなことするの？

学校での活動（グループワークの進行や赤ちゃん親子のサポートなど）
説明会などの運営サポート



スタッフによる
赤ちゃん人形を使った様々な体験学習

妊婦・胎動体験



離乳食の話
育児体験(ミルク、お着替え、オムツ替え)

中学生対象の「赤ちゃんふれあい体験交流事業」による子育てに関する意識啓発

赤ちゃん交流体験事業は次世代を担う小中学生が、赤ちゃんと一緒に遊び、触れ合い命の尊さや心身の発達を学ぶ機会です。将来の子育てに対する期待や意欲を育むことを目的に実施しています



助産師による講話
赤ちゃんとの交流の前に
”いのちのはじまり”
について事前学習します
(希望校のみ)



成長の様子や
毎日の過ごし方などを
写真や記録をみながら



ミルクをあげたり
離乳食を食べさせたり



子育ての楽しさや
大変さ。。。
子育ての今を
お伝えします



市内の中学3年生全員を対象に実施。令和6年度は10校で711人が参加！

体験前後の中学生の意見の変化を見ると、意識啓発の効果あり！

協力した親子にもプラスの効果！

実際に参加した親子の声

- ★「可愛い可愛い」とたくさん言ってもらえて嬉しかった。大事に育てていきたいと思いました。
- ★授業に協力できてとても良かったです。生徒さん達もとても意欲的だったので嬉しかったです。
- ★なかなか接する機会がない学生と交流が持てて良かった。我が子の成長が楽しみになりました。

県内自治体の取り組み事例②

：上三川町子育て支援センター「あったかひろば」



パパ、ママみんなで見守ります♡

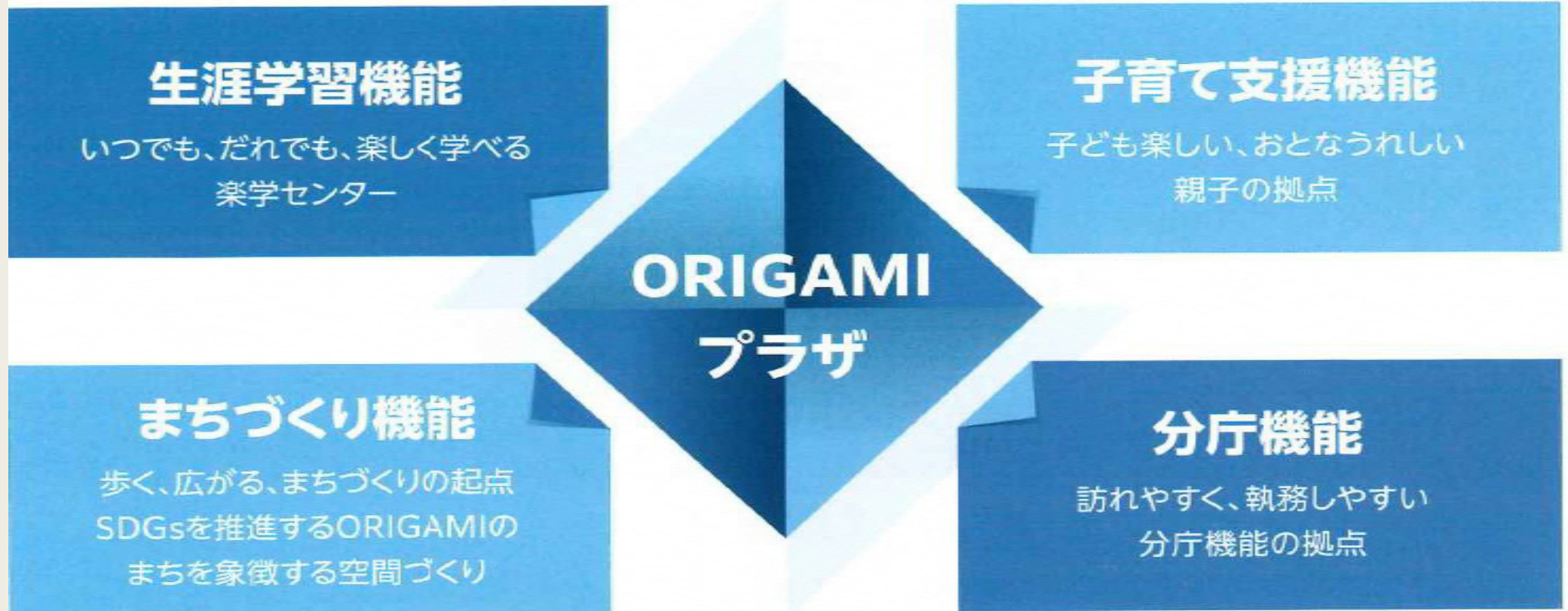


折り紙、僕が先生です!!

県内自治体の取り組み事例②

： 上三川町子育て支援センター「あったかひろば」

学ぶ・育てる・助け合う 町民に寄り添う施設



【上三川町】生涯学習機能と子育て支援機能を併せ持つ施設を核とした市民活動の活性化《事例発表あり》

学ぶ・育てる・助け合う 町民に寄り添う施設

生涯学習機能

いつでも、だれでも、楽しく学べる
楽学センター

子育て支援機能

子ども楽しい、おとなうれしい
親子の拠点

子育て支援センター
「あったかひろば」

ORIGAMI
プラザ

まちづくり機能

歩く、広がる、まちづくりの起点
SDGsを推進するORIGAMIの
まちを象徴する空間づくり

分庁機能

訪れやすく、執務しやすい
分庁機能の拠点

資料：ORIGAMI プラザパンフレットより

おりがみ教室などの
さまざまな生涯
学習活動を通じて、
こどもから高齢者
までの幅広い世代
が活発に交流！

【遊戯室（屋内）】は、子どもたちが自由に遊具で遊ぶだけでなく、親と子がふれあい、親子同士が交流することができる「親子の居場所」として整備！

【一時預かり保育】や【子育てに関する相談】にも対応！

県内自治体の取り組み事例②

：上三川町子育て支援センター「あったかひろば」

子育て支援センター「あったかひろば」

新しい子育て支援センター内には、保育室、相談室、遊戯室等を設置し、子どもも大人も楽しめる施設となります。屋外にはふわふわドームで遊べるこどもひろばがあり、屋根付きなので日差しが強い日でも安心して遊ぶことができます。

利用できる方 0歳～小学生のお子さんとその家族

利用料金 無料

保育室

木のぬくもりを感じさせる空間となっています。平日は静かな空間としてイベントや講座などで使用します。

また、土曜日、日曜日、祝日（年末年始を除く）は、生後4か月以上で未就学のお子さんの一時預かり事業を実施します。

利用時間 午前9時から午後5時まで

**一時預り
利用料金** 4時間まで1,000円、
4時間以降1時間当たり500円



遊戯室

雨の日も暑い日も、天候に左右されないあそび場です。利用する子どもたちの年齢にあわせて楽しめる2部屋です。クライミングウォールやボールプールなどの遊具でお子さんを遊ばせながら、子育ての悩みなどを相談することもでき、親子のあたたかな交流の場です。



相談室

子育てのこと、お子さんのことなど何か困っていることがあれば、個別に保育士が相談に応じます。プライバシーも守られる空間です。

屋外施設

こどもひろば

車路に面さない安全な位置にあり、屋根付きなので日差しの強い日でも利用することができるスペースとなっています。



ふわふわドーム

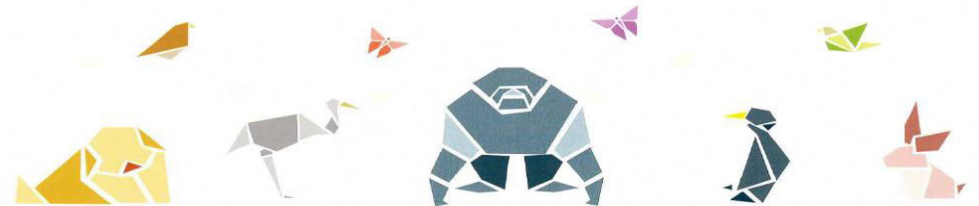
こどもひろばの中央に大型のふわふわドームを設置し、その周辺は人工芝になっていますので、裸足で楽しく遊べます。対象年齢は、3歳から12歳まで。

夏場の水遊び

未就学児を対象に、夏の暑い日には小型のプールなどを設置し、水遊びができます。

上三川 日産スクエア（屋根付き広場）

敷地内にある既存のウッドデッキを改修し、屋根付き広場を設置しました。無料で使用できます。



栃木県での子育て支援の取り組み



「栃木県」・「子育て支援」・「ポータルサイト」
の頭文字で
「とこぽ」だよ！

栃木県子育て支援ポータルサイト「とこぽ」が開設（2024.3）

<https://tocopo.pref.tochigi.lg.jp/>

「とこぽ」は、子育てに関する補助金や子育てサロン、制度等の支援情報やこどもとのお出かけスポット、遊びの情報をご紹介します。

栃木県での子育て支援の取り組み



TOCOPO

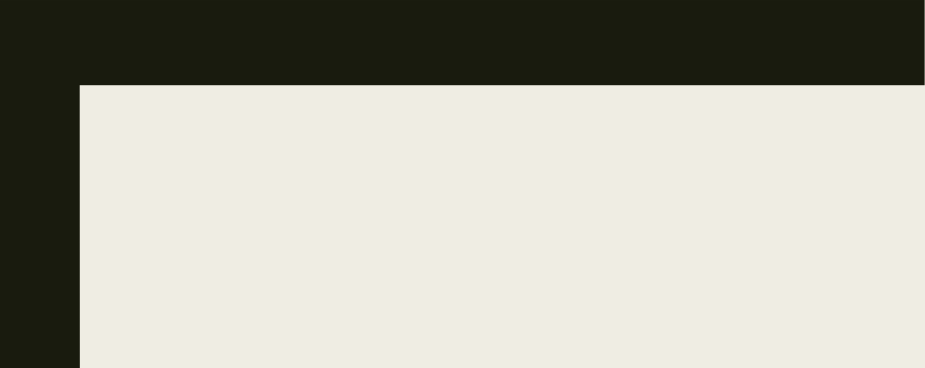
栃木県子育て支援
ポータルサイト

みんなの
気になる子育て情報

- 1 経済的な支援制度
- 2 働くママ・パパのための支援制度
- 3 こどもの遊び場：宇都宮市
- 4 地域子ども・子育て支援事業
- 5 こどもと体を動かす遊び

もっと詳しく探す →

各市町の子育て情報は [こちら](#) →



ご清聴いただき、ありがとう
ございました。

